

日輪の遺産

浅田二郎さんの小説です。

終戦間際に、将来の日本を案じ、再起のための財宝を守るべく

画策する軍人達と、そんな運命に翻弄される女学生たち。

軍人さんの死亡間際に、そんな手記をうけとってしまう二人が、

財宝を主題に推理を深めていくのと並行して

当時のドラマ模様が描かれています。

フィクションだとは思いますが、よくできた話で、

結構なよみごたえでした。

われわれは、遺産として何をうけとり、

そして、その遺産に対して、何か応えることができているだろうか、

ということを考えさせられます。

小説としては、登場人物の性格のバラバラさが非常におもしろく、

また、登場人物の一人については、

その描写から、ずっとだまされてしまったりも ...

高校剣道部の

飲み会でした。